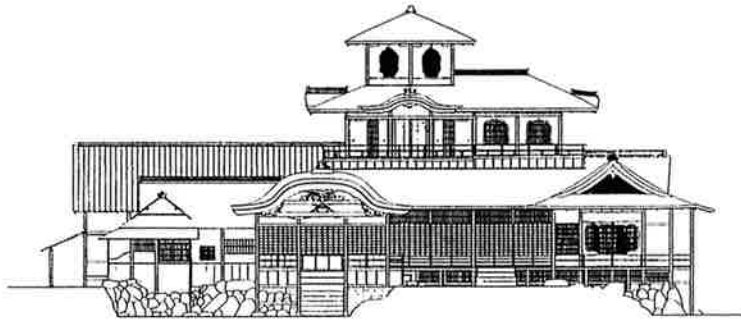


日本イコモス国内委員会

JAPAN ICOMOS INFORMATION

第4期 第10号 2000年3月22日 発行



目 次

本部役員選挙の結果をめぐる疑問と紛争	石井 昭	1
1999年次第4回理事会(拡大理事会)報告	山田幸正・他	2
日本イコモス国内委員会1999年次総会記録	石井 昭・他	4
I. 報告事項		4-7
II. 審議事項		8-14
III. 協議事項		15-16
2000年次第1回理事会(拡大理事会)報告	石井 昭	17
シンポジウム「建築遺産の保存修復と建築史 - 海外編」	岡田保良	21
研究会「近現代建築の保存について考える - 第3回」	田原幸夫	23
事務局日誌(1999/11/1~2000/2/29)	事務局	27
お知らせ - 6件	杉尾伸太郎・山田幸正・他	29

JAPANESE NATIONAL COMMITTEE

ICOMOS

INTERNATIONAL COUNCIL ON MONUMENTS AND SITES / 国際記念物遺跡会議

表紙 : 本願寺飛雲閣
COVER : Honganji Hiunkaku

本部役員選挙の結果をめぐる疑問と紛争

石井 昭

メキシコ総会の最終日（去る1999年10月23日）に行なわれた本部役員選挙、とりわけ会長選挙は、既報のごとく、イコモスの内部に憂うべき事態をもたらしました。一言にしていえば、投票結果の信憑性をめぐる深刻な疑問と紛争です。日本イコモス会員の皆様に事態の推移をお知らせするために、再び重い筆を執ることとしました。

会長職	投票結果	初回	決選
C. F. Marini	(Mexico)	142	—
M. Petzet	(Germany)	516	当 637
M. R. S. I. Ducassi	(Spain)	460	563
- ABSTENTIONS		2	10
- TOTAL		1120	1210

左の表は会長職についての投票結果を示しています。初回投票では過半数得票者が無く、決選投票によって M. Petzet 氏（ドイツ）が当選と決まりました。これに関し総会席上で提起された疑問は次の通りです。- 決選投票の TOTAL（投票総数）が初回投票よりも増えたのは不可解だ。帰国旅程の都合で会場を去った人々もいるので減るのが当然ではないか。数値に誤りがあるとすれば当選者が逆転する可能性もあろう。- しかし議論は不毛のまま閉幕。落選した M. R. S. I. Ducassi 女史（スペイン）は 20 余名の連署を得て「真相究明」を訴える要望書を総会議長 R. B. Castro 氏（メキシコ）に提出しました。11月に入ると、同女史だけでなく、C. Mesén 氏（コスタリカ）S. Sampaio 女史（ブラジル）など、中南米の国内委代表たちも、電子メールによるアピールを諸方面へ送りました。むろん日本イコモスもそれらを受取っています。

11月20日ごろ、投票用コンピューターシステムの設計を担当したソフト会社 UNIMEDIA がようやく報告書を提出し、「システムは 23 台の端末と 1 台のホストコンピューターから成っていた」「初回投票では幾度か端末がフリーズを起したので部分的なデータの欠落が生じたかもしれない」「その後の投票では端末を 15 台に減らした」と証言しました。これを契機に事態が一段と深刻化したのは当然でしょう。「真相究明」を訴えていた人々は「投票結果無効」の主張へと重点を移しました。なかんずく、C. Pernaut 氏（アルゼンチン）=今次選挙で副会長に当選= は 12月中旬に本部（パリ）へ提案書を送り「規約の第 10条D 4 項を適用して郵便投票による再選挙を実施すべきだ」と主張しました。

本部では、12月19・20両日、Petzet 氏が初のビューロー会議（幹部 4 役会議）を召集し、協議のうえ、短いコミュニケを発表しました。ICOMOS NEWS (Vol. 9, No. 3) に全文が載っていますので、読まれた方も多いでしょう。「コンピューターの誤作動から憂慮すべき事態を招いたが現行規約のもとでは救済方法が無い」「唯一可能な結論は総会での選挙結果を是認することだ」といった内容です。各国の国内委員会へは新年 1 月になってコミュニケと共に 13 点の参考資料が配布されました。うち、事務局作成の 1 文書が特に重要で「有権者数は 1115 名であった」と述べています。しからば、ご覧の不等式が成り立つはずですが、投票結果とされた数値は明らかに誤りで、ソフト会社の証言とは逆に、過大であると言わねばなりません。

有権者数 = 1115 > 初回投票 > 決選投票

スペイン-中南米グループの人々は各種の情報を総合して「真の当選者は Ducassi 女史であった」と確信している模様です。それ故、ビューロー会議声明に対しても怯む気配はありません。最近（3月）になっても、R. Ulloa 氏（コロンビア）A. M. Carreño 氏（ペルー）J. N. Concha 氏（チリ）A. L. Conti 氏（アルゼンチン）T. C. Castro 氏（コスタリカ）などが「投票結果無効」と「再選挙」とを執拗に論じています。他方、それらに混じって 3月13日、ユニークな電子メール 1 通が届きました。「選挙問題は笑って済ませよう」「勝敗よりも参加が大切だ」といった内容で、発信者は P. Waldhaeusl 氏（オーストリア）です。受けて立ったのは目下のところ Conti 氏と Carreño 氏の 2 人（前出）ですが、「どうして笑えるのか」「正義こそが大切だ」と真剣に反論しています。

選挙は公正であったか？ このことが問われているが故に今日の事態は重大です。イコモス政治にかかわる権力闘争とのみ見なして放置するわけにはいきません。

1999年次第4回理事会（拡大理事会）報告

1999年次第4回理事会（拡大理事会）が、去る12月11日（土曜日）午前11時から午後0時30分まで、東京・神田の学士会館で開催された。出席者は、委員長：石井 昭、理事：稲葉信子・岡田保良・日高健一郎・藤本 強・前野まさる・宮本長二郎・宗田好史・安原啓示・山田幸正、監事：木原啓吉、顧問：伊藤延男・稲垣栄三、本部執行委員：西村幸夫、小委員会主査：益田兼房・羽生修二、事務局員：我妻綾子（陪席）の各氏、議事内容は以下の通りであった。

[審議事項]

1) 新規入会者および退会者の承認

下記10名の入会と1名の退会について申請があり、審議の結果、これを承認した。

(入会希望者)	(現職)	(推薦者)
尼崎 博正	京都芸術短期大学学長	安原啓示・杉尾伸太郎
大井 邦明	京都外国語大学教授	岡田保良・藤本 強
大野 敏	横浜国立大学工学部助教授	吉田鋼一・稲葉信子
岡崎 篤行	東京都立大学大学院工学研究科助手	西村幸夫・山田幸正
友田 博通	昭和女子大学国際文化研究所教授	山田幸正・岡田保良
仲 隆裕	京都芸術短期大学助教授	安原啓示・杉尾伸太郎
布野 修司	京都大学大学院工学系研究科助教授	岡田保良・宗田好史
松波 秀子	(株)清水建設技術研究所主任研究員	稲垣栄三・小寺武久
八木 雅夫	明石工業高等専門学校助教授	大河直躬・岡田保良
山崎 正史	立命館大学理工学部教授	岡田保良・宗田好史

(退会者)	(事由)
屋部 憲右	本人希望 (12月1日付け書面により本人から申出)

本件に関連して「当面は年間15名程度の新規入会者を期待する」「入会推薦にあたってはイコモス本来の国際的諸活動への貢献を重視し、これまで手薄であった専門分野・職業分野に属する意欲的な人物を優先するように努める」との既存方針を再確認した。また委員長から「会員構成上、研究者と男性が多いのが日本イコモスの特色であるが、実務家と女性も歓迎したい」との意向が述べられ、これを了承した。

2) 1999年次会計報告

1999年次会計報告（1998/12/8～1999/12/6）が、宮本会計担当理事によって行われ、これを了承した。

3) 1999年次会計監査報告

1999年次会計監査が木原監事によって事前に行われ、その結果につき、同監事より適正と認める旨の報告があった。

4) 総会に提出する議案書の点検

1999年次総会（同日午後1時開会）に提出するべく委員長・理事・主査が分担執筆した議案書を出席者全員で点検し、その内容を了承した。

5) 世界遺産候補「琉球王国のグスク及び関連遺産」の審査

日本政府が登録申請中の世界遺産候補 Gusuku Sites and Related Properties of the Kingdom of Ryukyu をめぐって、ICOMOSのEvaluation Mission が2000年1月末ごろ現地を視察する予定であることが石井委員長より紹介された。また、これに関連してICOMOS本部事務局長+Jean-Louis Luxen 氏から11月30日付の書面で「Missionの受入れに協力して欲しい」「候補案件に対する日本イコモスの意見を聞かせて欲しい」との要請が届いている旨が報告された。審議の結果、本件に関する今後の措置は委員長と安原・稲葉両理事に一任することとした。

6) US/ICOMOS SUMMER INTERN PROGRAM

例年どおり標記 Program の2000年次募集要項が間もなく送られて来るであろうとの前提で対応方針を審議し、以下のように決定した。（1）募集要項が届いたら速やかに日本イコモスの全会員にコピーを郵送する。（2）適切な期限を定め、応募状況を見たうえで、必要ならば稲葉・前野・渡辺3理事により選考を行なう。（3）その結果を受け、委員長の推薦状を添えて、事務局から応募書類を先方へ送付する。

7) 次回拡大理事会の開催日時

現役員の任期最終年に当る2000年次は例年よりも拡大理事会を1回だけ多くして5回開催したい旨が委員長から提言され、これを了承。協議の結果、次回を1月22日（土曜日）午後1時からと決定した。

[報告事項]

－ 委員長のUS/ICOMOS事務局訪問

去る10月5日、石井委員長が Washington DC の National Buildings Museum 内にあるUS/ICOMOS Office を訪問し、事務局長 Gustavo Araoz 氏と事業部長 Ellen Delage 女史に会い、我が国の大学院生が毎年Summer Intern Program に招かれていることに対する感謝の意を伝えた。席上、先方から「Intern Program はもともと双務的な事業であるが、日本側に困難な事情があることも理解できる。対象を大学院生や若手専門家だけに限らなくてもよい。他の枠組による招聘事業が可能ならば提案して欲しい」との意向が示された旨、同委員長から報告された。

（理事会報告 文責：山田幸正・石井 昭）

日本イコモス国内委員会1999年次総会 記録

1999年12月11日(土曜日)の午後1時から3時30分まで東京・神田の学士会館において「日本イコモス国内委員会1999年次総会」が開催された。出席者は、荒木伸介、石井 昭、伊藤延男、稲垣栄三、稲葉信子、岡田保良、小野 昭、岸本雅敏、木原啓吉、河野俊行、杉尾伸太郎、杉尾邦江、土井崇司、西村幸夫、羽生修二、浜崎一志、日高健一郎、藤本 強、前野まさる、益田兼房、宮川朝一、宮本長二郎、宗田好史、安原啓示、山田幸正の会員各氏と事務局員・我妻綾子氏で、他に69名の会員諸氏から委任状の提出があった。議事は藤本 強氏(副委員長)の司会により、(I)報告、(II)審議、(III)協議、の3部に分けて進められた。

I. 報告

(1) 1999年次一般報告 委員長・石井 昭

昨年次(1998年次)総会は12月12日に当学士会館で開催された。以来ちょうど1年になる。この間を振り返り、わが日本イコモス国内委員会の組織と活動の概況について報告しよう。

1. 理事会

今期(1998年-2000年)の理事会は1997年次総会の合意にもとづいて構成メンバーの範囲をやや拡大し、表決が必要な場合には規約を遵守するとの前提のもとに、理事・監事・顧問だけでなく、小委員会主査・ICOMOS本部執行委員にも参加願っている。便宜上、これを拡大理事会と呼ぶ。

[会議] 過去1年間に拡大理事会は4回の会議を開き、会務の処理に当たった。第1回3月13日、第2回6月12日、第3回9月11日、第4回12月11日(本日午前)である。第1・2・3回の議事についてはすでに JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌の第4期第6・7・8号にそれぞれ報告が掲載されている。

2. 会員

本年々初に行なった手続きによって、現在、ICOMOS本部に正式に登録されている日本イコモス会員は総数158名であり、すべて個人会員である。

[入会・退会] 過去1年間に理事会は17名の入会申込と5名の退会届を受理・承認した。従って2000年次の本部登録会員数は170名になる予定である。この件については本総会において承認(追認)をお願いする。

3. 国際専門分科委員会

ICOMOS傘下に、本年創設されたものを含めて、現在、総計20種の国際専門分科委員会が設けられている。日本イコモスからは、昨年未までに、それらのうち13専門委につき、VOTING MEMBER / および ASSOCIATE MEMBER を送っている。

[委員の選任] 本年、理事会は新たに1専門委につき VOTING MEMBER を選任した。また、3専門委につき ASSOCIATE MEMBER 各1名を追加選任した。この件については本総会において承認(追認)をお願いする。

[国際会議] 本年中に開催された専門委の ANNUAL MEETING, SYMPOSIUM 等のうち、日本イコモス代表委員が出席したのは、次に示す9件であった。

① ANALYSIS AND RESTORATION OF STRUCTURES IN ARCHITECTURAL HERITAGE (イギリス、マンチェスター、2月) 日高健一郎氏。② CULTURAL ROUTES (スペイン、イビザ、5月) 杉尾邦江氏。③ LEGAL ISSUES (スペイン、トレド、7月) 河野俊行氏。④ UNDERWATER CULTURAL HERITAGE (メキシコ・シティー、10月) 荒木伸介氏。⑤ CULTURAL TOURISM (メキシコ、グアダハラ、10月) 石井 昭氏・宗田好史氏。⑥ WOOD (メキシコ、グアダハラ、10月) 伊藤延男氏。⑦ LEGAL ISSUES (メキシコ、グアナファト、10月) 河野俊行氏。⑧ VERNACULAR ARCHITECTURE (メキシコ、モレリア、10月) 大河直躬氏・前野まさる氏。⑨ CULTURAL ROUTES (メキシコ、グアナファト、10月) 杉尾邦江氏。なお、上記の④～⑨はいずれも後述する「第12回 ICOMOS 総会」の一部として、あるいはその機会を利用して、催されたものである。

[今後の対応] 日本イコモス会員の国際専門分科委員会活動への参加は、過去数年間にわたる継続的努力により著しく進展した。しかし、現状はまだ必ずしも十分とは言えない。議案書の末尾に参考資料を載せたので、時間が許せば、今後の対応方針について協議をお願いしたい。

4. 小委員会

日本イコモス国内委員会規約第25条にもとづき、拡大理事会の議を経て、昨年中に次のような3種の小委員会が発足した。(a) 第1小委員会(文化遺産の保護に関する憲章等の研究) 主査: 益田兼房氏、顧問: 稲垣栄三氏、全8名。(b) 第2小委員会(出版・講座・旅行等の企画協力) 主査: 羽生修二氏、全3名。(c) 第3小委員会(歴史的建造物の構造補強等に関する研究) 主査: 日高健一郎氏、全8名。これらは現在も存続し所定の任務を担当している。

[新設] 本年次第3回拡大理事会(9月11日)で次のような小委員会を新設することとした。(d) 第4小委員会(世界遺産に関連する諸問題の研究) 主査: 稲葉信子氏、委員: 全10名以内の予定で検討中。

5. 事業

過去1年間に日本イコモスが単独または共同で実施した主な事業は以下の通りであった。

[研究会] ①「海外における文化遺産の調査と保存に関する円卓会議ー第3回」(日本建築学会建築歴史意匠委員会共催、2月2日、東京・建築会館) 報告: 三宅理一氏・西本真一氏、総括: 中川 武氏。②「近・現代建築の保存について考えるー第2回ーモダニズムと保存」(6月5日、東京・JIA会館) 序言: 石井 昭氏、講演: 三宅理一氏・南條洋雄氏、司会: 田原幸夫氏。③「建築遺産の保存修復と建築史ー海外編」(日本建築学会東洋建築史小委員会共催、11月20日、東京・建築会館) 序言: 鈴木博之氏、報告: ヨルゴス ラヴァス 氏・三宅理一氏・増井正哉氏・中川 武氏、総括: 渡辺勝彦氏、司会: 岡田保良氏。④「近・現代建築の保存について考えるー第3回ーヨーロッパ最新事情・ドコモモの活動と保存」(12月4日、東京・JIA会館) 序言: 石井 昭氏、講演: 渡辺研司氏・矢代真己氏・山名善之氏、司会: 田原幸夫氏。また、本日の総会に続いて次のような研究会を開催する。⑤「世界遺産をめぐる諸問題」(12月11日、東京・学士会館) 講演: 本中 眞氏・稲葉信子氏、司会: 石井 昭氏。

[継続研究事業] ①「海外の文化遺産の保存に関する憲章等の研究と日本での憲章作成の検討」= 公益信託大成建設自然歴史環境基金による1998年度助成事業、第1小委員会担当、主査: 益田兼房氏。本年3月末に報告書を完成した。

[出版協力・講座協力] ① 近畿日本ツーリスト出版部刊「世界遺産を旅する」全12巻の記事監修(有志担当、終了)。② 東京都江東区文化講座「続・世界遺産の旅ー中東・南アジア」への出講(有志担当、終了)。

6. 広報

従来同様、本年もまた、事務局の支援を得つつ役員各位が特に尽力したのは、全会員を等しく対象とする広報活動であった。総会・研究会・等の開催通知、ICOMOS MEMBERS DIRECTORY のための原票提出依頼などは、ダイレクトメールで送った。一方、総会報告・理事会報告・研究会報告・国際専門分科委員会活動報告・等の諸報告、日常の会務を記録した事務局日誌、会員の参考に供し意見を徴すべき資料・解説・要請などは、各当事者に執筆を依頼して JAPAN ICOMOS INFORMATION 誌に掲載した。

[INFORMATION 誌] 過去1年間に第4期・第5号(3月5日)、第6号(6月9日)、第7号(8月16日)、第8号(11月19日)と、計4回発行し、全会員へ郵送した。これらの号には、上述した諸記事のほか、時宜にかなう主題を選んで適任者に依頼した記事も載せた。坂本 功氏「歴史と構造そして ICOMOS-ISCARSAH」、西沢英和氏「土壁の応急補修を考える」、村上裕道氏「阪神大震災と文化財建造物の構造補強」、渡辺勝彦氏「ネパールでの国際的保存活動」(第6号)、南條洋雄氏「世界遺産としてのブラジリア」、西村幸夫氏「パガン遺跡の保存」(第7号)、片野朋治氏「US/ICOMOS SUMMER INTERN PROGRAM に招かれて」、伊藤延男氏「木造建築フォーラム〈第36回大阪国際フォーラム〉」、西浦忠輝氏・二神葉子氏「国際文化財保存修復研究会からの知見」、羽生修二氏「プトナ国際会議を開催して」(第8号)などがその例である。

7. 第12回 ICOMOS 総会

本年10月17日から23日までの1週間にわたり、メキシコ国内の4都市(メキシコシティ、グアナファト、モレリア、グアダハラ)を舞台として、第12回ICOMOS総会(GENERAL ASSEMBLY and INTERNATIONAL SYMPOSIUM)が開催された。わが日本イコモスからも荒木伸介・土井崇司・石井 昭・伊藤延男・片方信也・河野俊行・前野まさる・宗田好史・西村幸夫・大河直躬・杉尾邦江の各氏(11名)がこれに参加し、ASSEMBLY では石井が VICE CHAIRMAN を務め、SYMPOSIUM では西村氏がグアナファト会場の RAPORTEUR を担当したほか、片方氏・河野氏・大河氏がそれぞれ研究発表を行なった。また、最終日に実施された ICOMOS 本部次期役員選挙では執行委員立候補者の西村氏が12名中第4位という高得票で当選した。

この総会の模様については、ごく簡単な「速報」をINFORMATION 誌第8号に載せたが、追って、参加者全員の分担執筆による詳しい報告を第9号(特集号・近刊)に載せる予定である。

8. ICOMOS 諮問委員会

1999年次の ICOMOS ADVISORY COMMITTEE MEETING は 上述の総会に先立ち、10月16日にメキシコシティで開催され、日本イコモス代表として委員長(石井)が、また本部執行委員として西村幸夫氏がそれぞれ出席した。この会議の模様についても 追って INFORMATION 誌第9号で報告することとしたい。

(以上 一般報告)

上記の「一般報告」に続いて、次ページに示す通り、宮本長二郎理事より「1999年会計報告」が、また木原啓吉監事より「1999年会計監査報告」が行なわれた。

これら3種の報告はいずれも全会一致で承認された。

(2) 日本イコモス国内委員会 1999年会計報告 (1998/12/8 ~1999/12/6)

1. 繰越金	普通預金	<u>3,354,635円</u>
2. 収 入		
	90年~98年滞納分会費	200,000円
	99年分会費	1,290,000円
	2000年分前納会費	20,000円
	普通預金利息	1,701円
	定期預金利息	35,141円
	出版企画協力等謝金	564,000円
	研究会参加費	22,000円
	寄 付	90,000円
	合 計	<u>2,222,842円</u>
3. 支 出		
	ICOMOS本部99年会費 (158名)	783,614円
	会 議 費 (総会・理事会等)	213,533円
	研 究 会 費	138,105円
	渡 航 費 補 助	0円
	通 信 費	360,680円
	印 刷 費	395,150円
	事 務 用 品 費	100,307円
	事 業 費	2,231,625円
	事務局人件費補助	600,000円
	慶 弔 費	20,000円
	合 計	<u>4,843,014円</u>
4. 残 高	普通預金 (繰越金+収入-支出)	<u>734,463円</u>
5. 基 金	定期預金 (イコモス研究振興基金)	<u>12,550,000円</u>

以上の通り報告します。
1999年12月11日

会計担当 宮本長二郎



会計監査欄 監査の結果

正確に報告されており
を認めます。

1999年12月11日

監事

木原啓吉



II. 審議

(1) 入会者および退会者の承認

理事会は1999年中に下記の通り17名の入会と5名の退会を承認した（日本イコモス国内委員会規約第17条）。 - 敬称略。

入会者	現職	推薦者
(第1回理事会・3月13日)		
南條洋雄	株式会社南條設計室代表	田原幸夫・陣内秀信
(第2回理事会・6月12日)		
磯野哲郎	(株)パデコ シニア・アーキテクト	岡田保良・山田幸正
(第3回理事会・9月11日)		
泉 拓良	奈良大学文学部文化財学科教授	安原啓示・岡田保良
東樋口護	京都大学大学院工学研究科助教授	岡田保良・宗田好史
浜崎一志	滋賀県立大学人間文化学部助教授	益田兼房・岡田保良
前川 要	富山大学人文学部助教授	藤本 強・安原啓示
町田 章	奈良国立文化財研究所長	坪井清足・沢田正昭
(第4回理事会・12月11日)		
尼崎博正	京都芸術短期大学学長	安原啓示・杉尾伸太郎
大井邦明	京都外国語大学教授	岡田保良・藤本 強
大野 敏	横浜国立大学工学部助教授	吉田綱市・稲葉信子
岡崎篤行	東京都立大学大学院工学研究科助手	西村幸夫・山田幸正
友田博通	昭和女子大学国際文化研究所教授	山田幸正・岡田保良
仲 隆裕	京都芸術短期大学助教授	安原啓示・杉尾伸太郎
布野修司	京都大学大学院工学系研究科助教授	岡田保良・宗田好史
松波秀子	(株)清水建設技術研究所主任研究員	稲垣栄三・小寺武久
八木雅夫	明石工業高等専門学校助教授	大河直躬・岡田保良
山崎正史	立命館大学理工学部教授	岡田保良・宗田好史

退会者 事由

(第1回理事会・3月13日)
川添智利 1999年1月29日逝去 書面により遺族から申出

つづく

(第2回理事会・6月12日)

岡田英男 重病 2月17日付け書面により家族から申出
 田中 琢 本人希望 3月20日付け書面により本人から申出
 森 宣勝 逝去 3月29日付け書面により遺族から申出

(第4回理事会・12月11日)

屋部憲右 本人希望 12月1日付け書面により本人から申出

2000年の年初に上記入会者および退会者の登録および抹消を ICOMOS 本部に申請する(日本イコモス国内委員会規約第14条)。

本件について総会の承認をお願いしたい。

審議の結果、承認。

(2) 国際専門分科委員会委員の選任

理事会は1999年中に下記の通り4種の国際専門委に参加するVOTING MEMBER または ASSOCIATE MEMBER を選任した。－敬称略。

INTERNATIONAL SCIENTIFIC COMMITTEE	VOTING M.	ASSOCIATE M.
(第2回理事会・6月12日) Cultural Tourism	----	宗田好史
(第3回理事会・9月11日) Historic Towns and Villages Vernacular Architecture Stone	---- ---- 西浦忠輝	福川裕一 前野まさる

(1) 上記の ASSOCIATE MEMBER (宗田好史、福川裕一、前野まさる) は 当該国際専門委の現 VOTING MEMBER (石井 昭、上野邦一、大河直躬) と明年中の適当な時期にそれぞれ交代するものとする。

(2) 任期は原則として3年間。ただし、専門委ごとに規約、改選時期、等に相違があるので、今後の対応については各委員がそれぞれ検討し、必要に応じて理事会に申し出るものとする。

本件について総会の承認をお願いしたい。

審議の結果、承認。

(3) 2000年次活動方針

日本イコモス規約第22条の主旨に沿い、今期（1998年－2000年）の理事会では、理事全員（14名）が会務を次のように分担している。

副委員長： 藤本 強・前野まさる
会員担当： 岡田保良・近藤公夫
事業担当： 田原幸夫・日高健一郎・安原啓示
渉外担当： 稲葉信子
広報担当： 藤木良明・宗田好史・山田幸正
庶務担当： 渡辺保弘（＝事務局担当）・上野邦一
会計担当： 宮本長二郎

また、規約第25条の主旨に沿い、現在、理事会のもとに3種の小委員会が設けられており、各小委員会の主査が拡大理事会に参加している。

第1小委： 益田兼房
第2小委： 羽生修二
第3小委： 日高健一郎（＝理事）

これらの理事および主査より以下のような活動方針が示めされた。

1. 活動全般

（藤本 強）

2000年次の活動方針としては、99年次の方針を受け継ぐことになる。99年はイコモス総会が開催されるなど対外関係が国内委員会の重要な課題であったが、本年はここ数年来討議が重ねられてきた国内委員会の組織の中長期的な課題に一定の見通しをたてる、いわば内政重視の年次ということになる。対外的には大きな役割を果たし、また果たすことが責務となっているイコモス国内委員会も、こと組織の実情ということになるとそれはきわめて寂しいのが実情である。国内委員会に期待されている責務が果たされているのは一部の役員と会員の献身的な努力によるものである。これからも国内委員会に対する期待はますます大きなものになることはあれ、それが小さくなることはまず考えられない。その期待に応えるためにも、組織的に強化していくことが求められよう。種々の提案がなされているが、それをよりよい方向で具体的にまとめる年にする必要がある。20世紀最後の年、さらにいえば2千年紀最後の年である。のであるから、組織としての足腰を強くして新しい世紀、千年紀を迎えることが重要である。

2. 会員担当

（岡田保良）

先年来検討を繰り返し、99年度に「年間 1-2割の会員増」として99年度も堅持し、個人会員の増強をはかる。99年度は数名の退会者を差し引くと会員増は10名ほどであり、いま少しの努力が必要と思われる。

新会員推薦にあたっては、単に入会希望者を待つのみならず、

- ・国内外における文化遺産の調査や修復に関するさまざまな活動を牽引される方々、
- ・イコモスにとって有用な情報を提供できると期待される方々、
- ・国際専門委員会の各分野において活躍の期待できる方々、

には、イコモス側から積極的に入会を促すようつとめる。とくに、国際専門委員会へのメンバー候補推薦の機会に、多様な世代にわたる人材がつねに確保されている状況を目ざしたいと考える。

（近藤公夫）

日本イコモス国内委員会活動の基盤である会員数の増大について会員の意見を集約する。

3. 事業担当

(田原幸夫)

昨年から年2回の目標で進めてきた「近・現代建築について考える」と題した研究会も、今年12月4日で3回目を終了した。この研究会の目的は、今や我が国においても大きな社会的テーマとなってきた、「近過去」の建築遺産の保存について、ICOMOSだけではなく広範な関係者のご協力を得ながら、毎回テーマを絞って考えてゆこうというものである。幸い我が国においても DOCOMOMO の活動がスタートし、JIA(日本建築家協会)関係者の関心も非常に高いものがある。近過去の遺産それも所謂「モダニズム建築」などについては、日本イコモスの活動のフィールドとしてまだいささか違和感をお感じになる会員諸氏も多いと思われるが、現代の生活環境創りの中で「遺産」を大切に活用してゆくことはいまや世界的なテーマであり、ここにおいては「文化財」をより広範な概念において促える事が必要となる。こうした考え方のもとに、2000年次においても年2回(春・秋)、より具体的テーマを設定し、21世紀へむけての方向を探りたいと考えている。

(日高健一郎)

ISCARSAH(解析と構造補強専門委員会)の活動に対応して、歴史的建造物の構造補強に関する研究会を開催したいと考えている。イコモスの主旨と動向に沿った研究会を効果的に開催できるよう、他の事業担当理事に協力したい。

(安原啓示)

- ・「遺跡整備マニュアル」作成を目的として、文化庁記念物課主催で、「史跡等整備のあり方に関する調査研究協力者会議」を継続しており、その概要をインフォメーションに報告してゆきたい。
- ・文化庁記念物課の指導で、毎年「全国史跡環境整備担当者会議」が開催されており、その概要をインフォメーションに報告してゆきたい。
- ・(奈良の)泉氏や、(富山の)前川氏の入会があったので、関西で、遺跡の調査・修理・修復・復原・整備・管理についての研究会を開催するよう助言・指導を行いたい。

4. 渉外担当

(稲葉信子)

ICOMOS NEWS に日本イコモス国内委員会からのニュースが必ず掲載されるよう、年2回は記事を送りたいと思います。またEメールによる本部からの通信が増えていますので、正式のメールアドレスの設置について早急に検討したいと思います。
(現在は暫定的に渉外担当理事の職場のアドレスに送られてきています)

5. 広報担当

(宗田好史)

1999年度より、インターネットによる広報活動に着手すべく検討を続けている。日本イコモス委員でも、日頃のコミュニケーション手段として、これまでも電子メールが急速に普及してきた。海外との連絡だけでなく、国内の理事・委員相互の連絡にも多く使われるようになった。そのため「メーリング・リスト」開設が期待されている。とりあえず、会員のメールアドレスを早急に集めたいと考えている。ただし、インターネットを利用しない会員を考慮すると、メーリングリストは、当面実験的は試用に限定し、従来の通信手段はそのまま継続することも必要である。実験的な試用とは、委員会のメーリングリストを拡大理事会の範囲に限定すること、その後、電子メール利用会員全員に広げることが可能か検討することである。2000年度には、懸案であったメーリングリストにはまず着手したいと考えている。

またこれまで議論されてきたように、日本イコモス国内委員会の「ホームページ」を立ち上げなければならない。そのサイトをどこに置くかが検討されてきたが、当面の間利用しやすいサイトであるカナダ・イコモスのあったサイトについても、具体化

する作業を始めている。ホームページの内容は、当面の間、簡単なものとし、日本国内の世界文化遺産の紹介については、各地の関連サイトへのリンクで済ませようと考えている。会員名簿、規約等、「日本イコモスのしおり」の内容に準じたものとした。追って JAPAN ICOMOS INFORMATION の内容の掲載等を検討する。

(山田幸正)

昨年度と同様、主に [JAPAN ICOMOS INFORMATION] の編集・発行を通じて、イコモスを中心とする文化遺産保存の活動に関する様々な情報を会員の方々に提供し、国内委員会の活動がさらに一層、活発化することに寄与したい。理事会での報告や論議を速報することを最大の役目と考え、今後も年4回程度、定期的に発行する。イコモス国内委員会が主催あるいは共催する研究会、講演会、シンポジウムなどを中心にその告知や報告などをできるだけタイムリーに掲載していく。また、世界各地で開催される文化遺産関連の国際会議や専門委員会などの情報についても、可能な限り、会員各位にお知らせするよう努めたい。現行における紙面の体裁を引き続き今年度も維持していく方針である。

6. 庶務担当

(渡辺保弘)

近年の活動および広報の活性化、また本部会費の値上げに伴い、本会の恒常的活動に対する支出規模も飛躍的に増大した。昨98年次(会員数 150名)に 203万円であった恒常的な支出経費が、2000年次(同 170名、予定)予算では最低でも 287万円と見積られた。20名の会員増(会員数 170名、会費1万円)に対して、支出は85万円増えている。最大の原因は ICOMOS 本部への送金会費が一人あたり 1,600円値上げされ、総額27万円程増えたことによる。しかし他の恒常的活動経費にも同程度の支出増が2000年次に見込まれる。これに対して2000年次の予想収入は、会費 169万円、未納分会費収入48万円と計上したが、実際のところは両者合わせてようやく会員数分の額(170万円)に近づくのが例年の実績である。預金利息は4万円に満たない。したがって安定収入である会費および基金等利息の合計 173万円は、予算支出としての 287万円を 114万円も下回る。この差額の内80万円は、出版企画協力等謝金などの会費外活動収入で賄える見込みがあり計上した。来年次も例年同様、会費の滞納が発生すれば、不足分は73万円程残る繰越金より調達せねばならない。ちなみに来年次は会員一人当たりに対して、本部送金会費 4,800円、INFORMATION発行・発送経費 3,000円、その他の必要経費 9,100円、合わせて会員一人につき 16,000円が算出される。さらなる活動・広報の充実化を計る場合にはより多くの必要経費が当然求められることになる。来年次はこの実情を踏まえ、2001年次以降の財務上の運営基盤の安定的なあり方を確立すべき検討が望まれる。またそれと共に、2001年次に計画されている事務局移転と新たな事務局組織のあり方も十分な検討が必要な事項として指摘される。

7 会計担当

(宮本長二郎)

これまでの懸案事項である会費滞納の解消、会費増加、会費以外の財源獲得、会費値上げなど、財政運営にかかわる諸問題は、委員会・事務局によって改善すべく努力を続けているが、本部 ICOMOS への納入金値上げにより逼迫度は増し、苦しい運営を強いられている。加えて 2001 年度の事務局移転問題は新たに大きな財政負担が予想されるなど、2000年は財政運営上試練の年である。したがって会費の大幅値上げによって対処するか、或いは会員倍増や国内委員会の法人化など、組織上の改革をとまなう方向転換を目指した解決策を講じる必要もあろう。いずれにしても委員会で討議を重ねる必要があるが、会員諸氏の積極的な意見・提案を期待したい。

8. 第1小委員会

(益田兼房)

1 憲章検討研究報告書には、稲垣顧問が作成された木造建築保存の共通原理ともいふべき考え方が簡潔にまとめられている。昨年の憲章小委員会や研究会では、この英

文化作業が提案されており、まずこれを行いたい。そして、この考え方を基礎に、各専門分野の経験の深い方々のご意見をインタビュー等で伺い、論点を整理していくことが、各分野での憲章検討を促進することになると考えられる。

この作業はまた、各分野に共通なためにイコモスとして議論がしやすいのがオーセンティシティ概念の整理作業である。奈良会議以後すでに30余りも行なわれているという海外でのオーセンティシティ議論の資料を集め、その中の重要なものを選んで、翻訳する作業も順次進めていきたい。

このような作業のため、憲章小委員会活動に若い世代の協力をさらにいただけるよう、委員や協力委員メンバーの補充等も検討したい。2005年の中国でのイコモス総会に、日本として憲章分野での存在感を出せるか、がひとつの目標となろう。

2 町並み保存分野の憲章検討活動との連携

現時点で、短時間の内に具体的な憲章の制定が検討可能な分野は、憲章検討報告書でも述べたように町並み保存分野と見られる。憲章を検討できる当該分野の組織として『全国町並み保存連盟』が存在し、平成10年9月の第21回全国町並み（東京ゼミ）で問題提起がなされ、憲章ワーキンググループ（主査：上野邦一イコモス歴史的町並み国際分科会日本代表）が活動を開始し、平成11年10月の大分県臼杵市での第22回全国町並みゼミでは憲章の枠組みが提示されている。平成12年10月の宮崎県日南市でのゼミでは、連盟としての憲章の原案の採択が行われる予定である。

このため、日本イコモス国内委員会憲章小委員会の委員等が連盟の作業に加わる形で調整を行いつつも、ある程度まとまった段階で小委員会として検討を行ない、イコモスとしての意見を正式に反映させる機会をつくりたいと考えている。連盟及びイコモスで連名で署名できるような原案が採択された後には、イコモスとしてはその英文の表現等を検討し、日本のこの分野での正式な国内憲章としての承認を国際分科会やパリ本部に求めていく必要がある。これを2002年のイコモス総会に間に合わせるためには、平成12年度での集中的な作業が欠かせない。当面、憲章小委員会はこの作業に重点を置くことになると思われる。

9. 第2小委員会

(羽生修二)

江東区の文化センター教養講座「世界遺産を旅する」(2シリーズ)の講師紹介および1997年から3年に亘った『世界遺産を旅する』(全12巻)の出版協力の事業も本年次をもって終了しましたが、その他の2~3の企画は、いずれも先方の都合で取り止めとなりました。引き続き次年次も現在のところ、予定されているものはありません。会員の皆様の中で何か良いアイデアをお持ちの方がいましたら、是非ご連絡いただきたいと思います。

10. 第3小委員会

(日高健一郎)

ISCARSAH(解析と構造補強専門委員会)での「歴史的建造物の構造補強のための指針」第3部("Annexes")の作成状況に対応して、次回ISCARSAH会議に先行して本小委員会を開催し、日本側意見の取りまとめを行なう予定である。なお、メキシコ総会の折に開かれたISCARSAH委員会には、日本からの委員が出席できなかったが、主査日高がISCARSAH運営委員会のアジア代表として再選された。

以上の2000年次活動方針は、若干の質疑応答が行われた後、異義なく承認された。

(4) 2000年次予算 (1999/12/7-2000/12/6)

1. 繰越金	普通預金	<u>734,463円</u>
2. 収入		
	2000年分会費	1,620,000円
	未納分会費	480,000円
	普通預金利息	1,500円
	定期預金利息	35,000円
	出版企画協力等謝金	<u>800,000円</u>
	合計	<u>2,936,500円</u>
3. 支出		
	ICOMOS本部会費	820,000円
	会議費	170,000円
	研究会費	200,000円
	渡航費補助	100,000円
	通信費	370,000円
	印刷費	410,000円
	事務用品費	100,000円
	事業費	100,000円
	事務局人件費補助	<u>600,000円</u>
	合計	<u>2,870,000円</u>
4. 残高	(繰越金+収入-支出)	<u>800,963円</u>
5. 基金		
	定期預金(イコモス研究振興基金)	<u>12,550,000円</u>

上記の予算書が宮本長二郎会計担当理事より理事会提案として示され、審議の結果、原案のとおり承認された。